

極早生でたくさんとれるチモシー「北見33号」

概要 Abstract

- チモシー「北見33号」は、道内各地域において安定して多収を示し、マメ科牧草との混播でチモシーの割合が維持されやすい品種です。
- 極早生で、最も早く収穫を開始できるため、早生～晩生品種との組合せにより収穫作業の分散化に寄与できます。

成果 Results

－「北見33号」の主要特性－

✓ 道内各地域で安定して多収

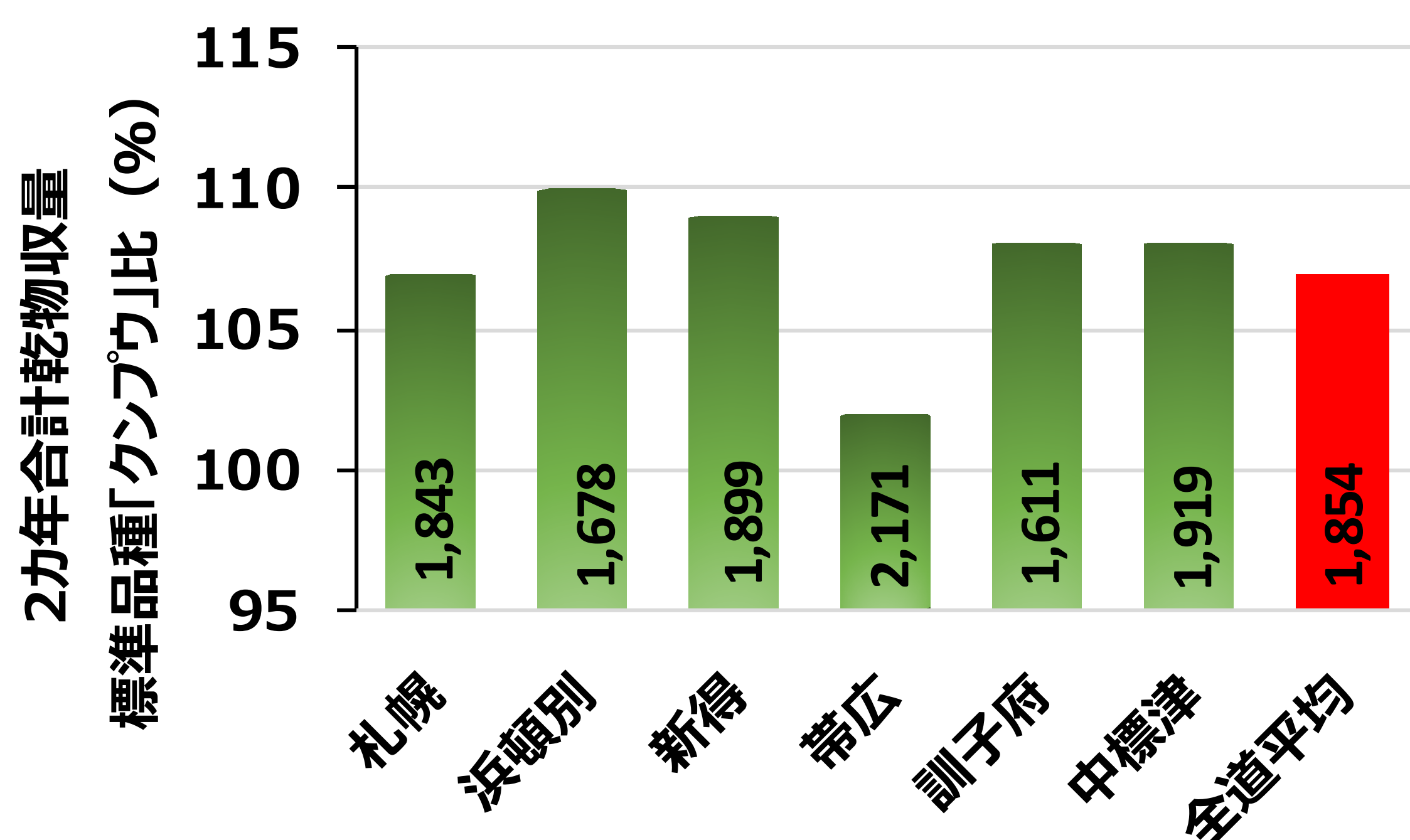


図1. 道内各地域における2カ年の合計乾物収量。
2-3年目の合計。グラフの数値は実収量 (kg/10a)。

✓ 冷涼多湿条件で多発する斑点病に強い

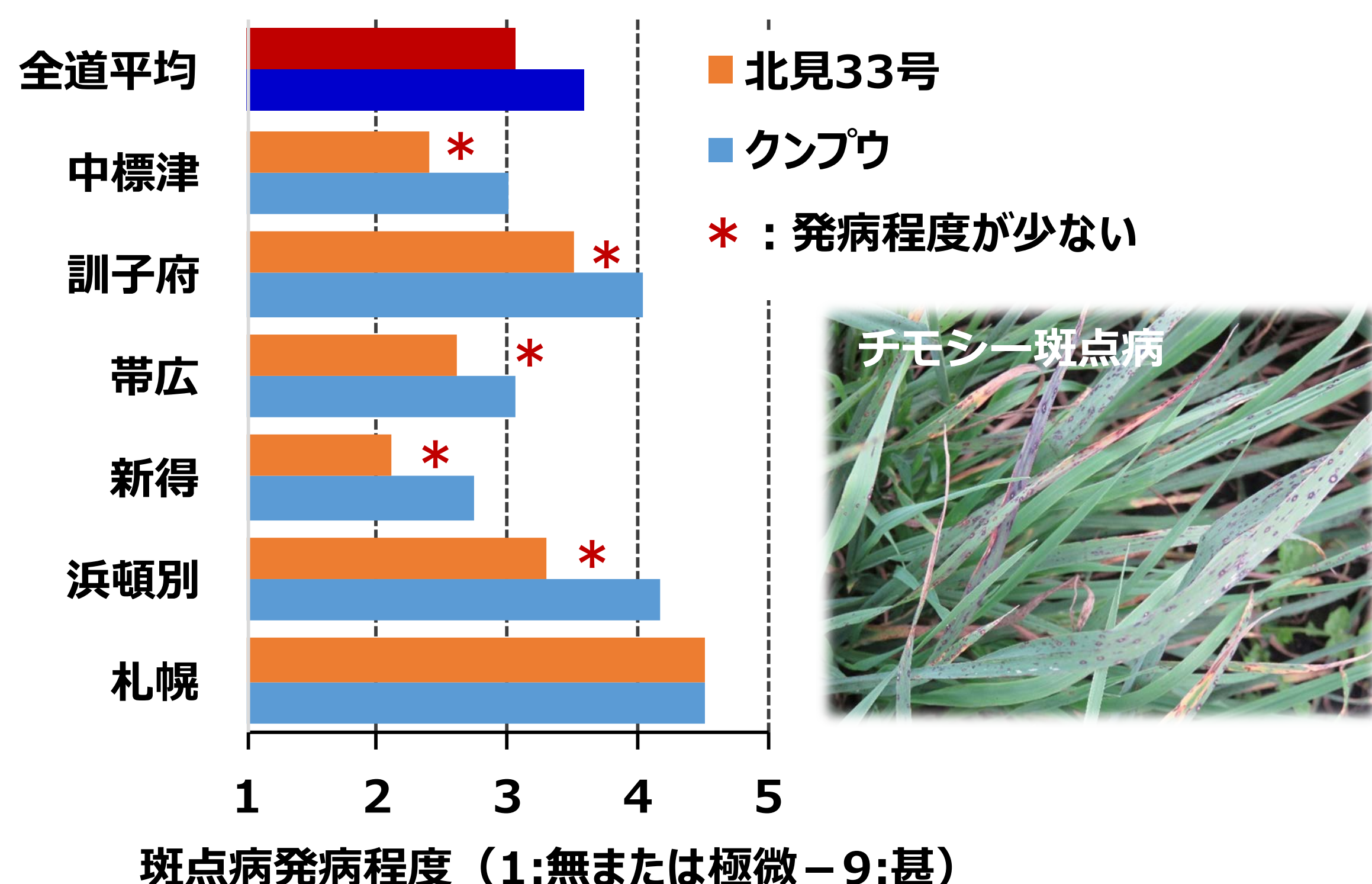


図3. チモシー斑点病の発病程度。
発生が認められた調査の平均。

普及 Dissemination

- 適応地域は北海道全域、種子の市販開始は平成34年春。
- 年間3回の採草利用を主体とする。

※道総研北見農業試験場とホクレン農業協同組合連合会の共同育成品種です。
※本研究の主な成果は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（農食事業）で実施した研究課題「北海道草地の植生を改善し高品質粗飼料生産を可能とする牧草品種の育成（26091C）」により得られたものです。



1番草の草姿（6月9日）

✓ 混播栽培に必要な競合力に優れる

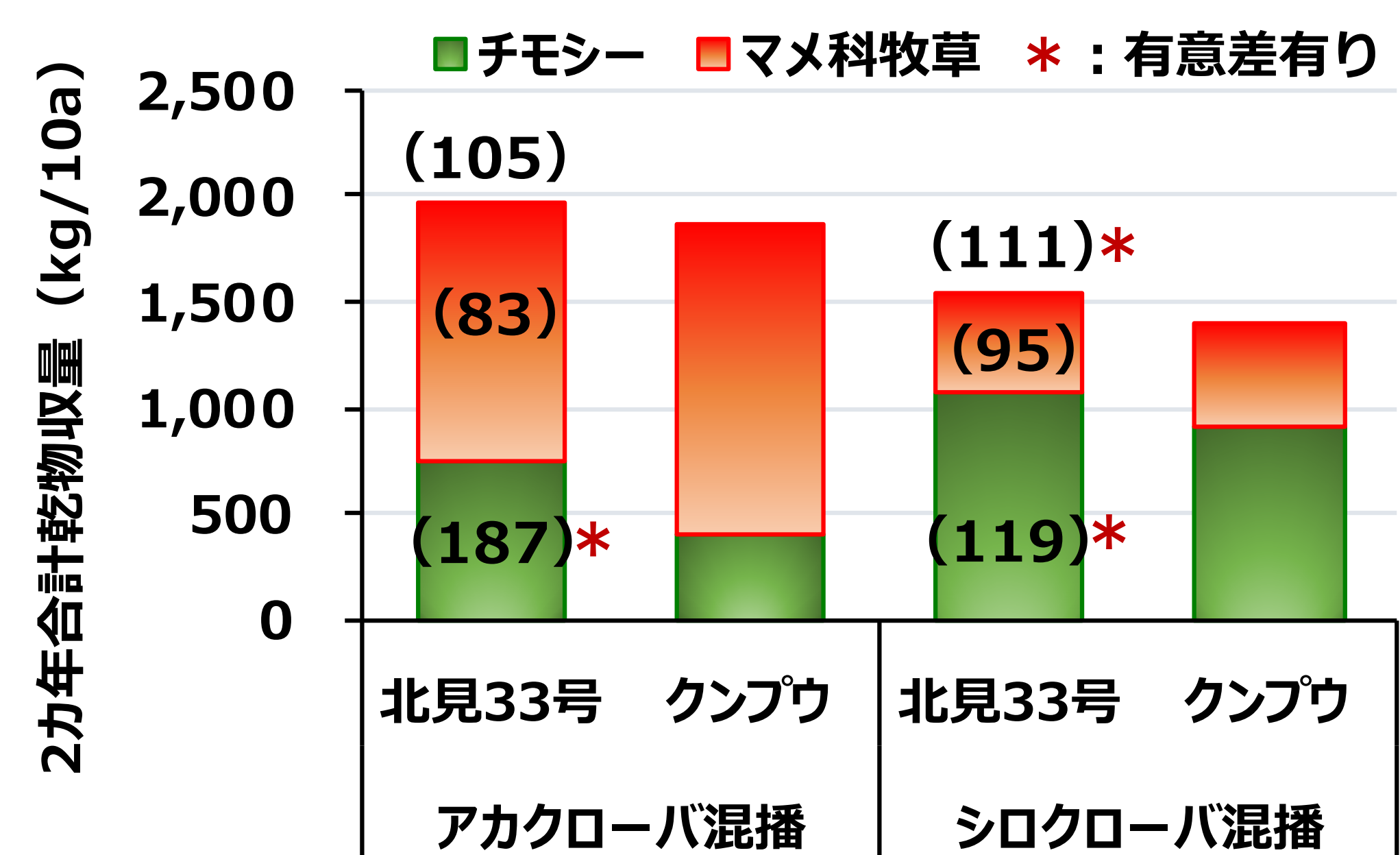


図2. マメ科牧草混播試験における乾物収量。
() 内は草種別、草種合計収量の「クンプウ」比 (%)。
2-3年目の合計。北見農業試験場圃場。



アカクロバ混播条件における生育状況
3年目晩秋（10月19日）

「北見33号」はチモシーの割合が高い

その他の栽培特性

- 越冬性が同程度かやや優れる
- 春の草勢が優れる
- 耐倒伏性がやや優れる
- 採種性が優れる

連絡先 Contact

北見農業試験場
研究部 作物育種グループ
0157-47-2146
kitami-agri@hro.or.jp